

今後の放鳥計画（案）

これまでの放鳥結果及び「トキ野生復帰ロードマップ 2020」における取組方針並びに現在の飼育下トキの性比等をふまえ、2018 年の放鳥計画を以下のとおりとする。

1. 放鳥の方法

順化ケージからのソフトリリースにより実施する（第 3 回～第 17 回放鳥と同様）ことを基本とするが、より多くの市民等にも参画頂ける放鳥方式の検討も併せて行う。

2. 放鳥の時期

第 16 回放鳥（2017 年 6 月実施）及び第 17 回放鳥（同 9 月実施）の結果、いずれも高い生存率が維持できていることから、2018 年も同時期に実施することとする。

○第 18 回放鳥：春放鳥（3 月上旬頃訓練開始 6 月上旬頃放鳥）

○第 19 回放鳥：秋放鳥（6 月下旬頃訓練開始 9 月下旬頃放鳥）

3. 放鳥個体数

放鳥個体数は、第 18 回放鳥 19 羽、第 19 回放鳥 19 羽の計 38 羽程度とする。

「トキ野生復帰ロードマップ 2020」における放鳥実施の方針、また、野生下での巣立ち率がなお低い状況にあることをふまえ、2018 年においても前年とほぼ同数の個体を放鳥する。

4. 放鳥個体の選定方針

【年齢】

若齢個体（6 歳程度まで）を中心に選定する。

【オス・メスの性比】

野生下のトキの性比が、一般的な鳥の性比と考えられている割合（雄：雌＝55：45）を目安として調整を行う。

春放鳥については、2017 年と同様に春放鳥の個体の生存率が高い傾向をふまえ、野生下で生存個体数の少ないメスの割合を増やすこととする。

秋放鳥についても、2017 年と同様に飼育下トキのメスが少ない状況をふまえつつ、野生下でより多くのメスがペア形成する可能性を期待し、オスの割合を増やすこととする。

【育雛形態】

自然繁殖（自然孵化および自然育雛）で育ったトキの繁殖成功率が高いことに鑑み、自然繁殖により育てられた個体を優先的に選定する。

【遺伝的多様性の向上】

野生下におけるホアヤンおよびイーシュイのファウンダー貢献度が低い現状をふまえ、繁殖計画とも連動させ、積極的にホアヤンおよびイーシュイの系統を放鳥個体として育成、選定していく。

(参考1) 野生下におけるトキ生存個体数 (2017年9月28日現在)

誕生年	年齢	オス	メス	性別不明	うち本州
2006	11	3	0		
2007	10	3	1		
2008	9	2	2		
2009	8	1 2	4		
2010	7	6	9		
2011	6	6	5		
2012	5	1 1	8		
2013	4	1 5	1 3		
2014	3	2 2	1 9		
2015	2	9	1 4		1 (♀)
2016	1	2 2	1 5		
2017	0	1 5	2 1		
計		1 2 6	1 1 1	6 2	1 (♀)
性比率		5 3 . 2 %	4 6 . 8 %		

※性比率の算出に性別不明個体及び本州にいる個体は含めていない

※性比不明個体が雌雄同数と仮定すると、雄：雌=52.5%：47.5%

(参考2) トキ飼育個体数一覧 (2017年10月2日現在)

Table with columns: 年齢, 性別, 飼育個体, 野生活動ステーション, 多摩動物公園, いしかわ動物園, 出雲市, 長岡市, 佐渡市, 羽数計. The table lists various bird IDs (e.g., 17B(AA), 19A(BL)) and their counts across different facilities and locations.